

やまばと通信

多摩市立図書館 情報誌 181号

2010年は
図書館でスタート!

主な記事

1P 「文庫展 開催のおしらせ」
「ほんともフェスタ 予告」

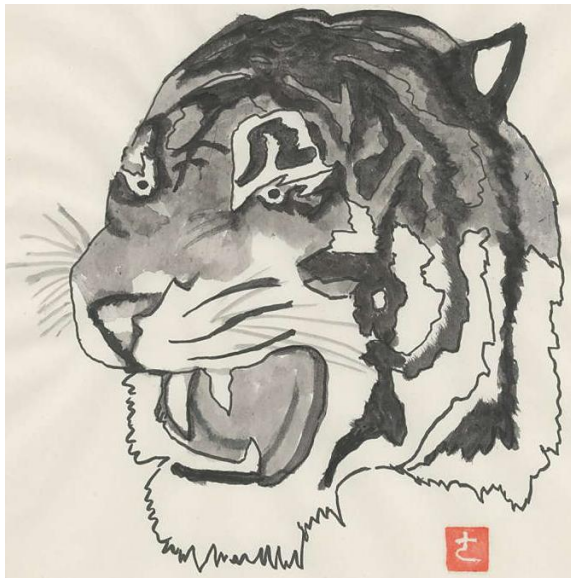
2P 「みんなの作品大ぼしゅう!」
「中学生クイズ参加チーム募集」

3P 「詩の本棚から」
「ボランティアさんに

インタビュー!」

4P 「ボランティアさんに

今年も
よろしく
お願いします



落合在住の草開さんよりイラストをいただきました!

平成23年3月オープン予定の「(仮称) 唐木田図書館に関するアンケート」にご協力
いただきありがとうございました。集計結果は、図書館各館のポスターまたはホームページをご覧ください。

第22回文庫展

子どもと本の広場 —本の世界であそぼう— 開催のおしらせ

今年も地域文庫のみなさんが、おはなし会や講演会、原画展など楽しい企画が盛りだくさんの文庫展を開催します。
小さいお子さんから、子どもの本に興味のある大人まで楽しめる内容ですので、ぜひご参加ください!

【日時】 2月20日(土)～24日(水) 10時～19時(最終日正午まで)

【会場】 ベルブ永山 (参加費無料・事前申込不要)

【プログラム】 ♪ 荻内 正幸(やぶうち まさゆき) 絵本原画展 会期中(ギャラリー)

♪ 荻内 竜太(やぶうち りゅうた)氏 講演会 “稀代の動物画家 荻内 正幸 ～その画家として、親としての姿”

21日(日) 14時～16時(ホール)

♪ 「どんぐりのおはなしころろ」大きい子から大人まで 20日(土) 14時～14時30分(講座室)

♪ 図書館職員によるおはなし会 20日(土) 14時30分～15時(講座室)

♪ 文庫連のおはなし会・保育園児向け 22日(月)～24日(水) 各日 10時30分～11時(講座室)

♪ 文庫連のおはなし会・あかちゃんと小さな子向け 日程同上 各日 11時30分～12時(講座室)

♪ 活動紹介の展示・みんなであそぼう 会期中 10時～17時(講座室) ※上記おはなし会の時間帯を除く

♪ 「9ゾウくんげんきかるた」であそぼう 21日(日) 10時30分～11時30分(視聴覚室)

♪ 特別展示「9ゾウくんげんきかるた」の原画 会期中(ギャラリー)

【主催・連絡先】 多摩市文庫連絡協議会 TEL042-376-9598 (19時～21時)

【後援】 多摩市教育委員会

多摩市立図書館

〒206-0033 多摩市落合2-29

(電話)042-373-7955

(FAX)042-375-9459

図書館ホームページアドレス <http://www.library.tama.tokyo.jp/>

携帯電話アドレス

<http://www.library.tama.tokyo.jp/i/>

2010年1月 発行



予告!

第3回

子ども読書まつり



《ほんともフェスタ》

～本とともにだち ほんとにともだち～

科学あそびに紙芝居、
わらべうたに語り^{かた}に影絵、
落語に朗読、布の絵本、
クイズに おはなし会など、
お楽しみいっぱいのお祭り
です。みんなで来てね!

3月6日(土) ヘルプ永山 3月7日(日) 図書館本館

☆3月8日(月)～13日(土): 各図書館でのおはなし会など

☆3月14日(日): 工藤直子^{くどうなおこ}さん講演会(詩人・童話作家)

詳しくは、次号の やまばと通信でご案内します!

みんなの作品

大ぼしゅう!



3月14日(日)に開催される講演会、

「のはらうた、うたおう!」の講師に、詩人で
童話作家の工藤直子さんが来てくれます!
そこで、みんなの作品を大ぼしゅう!

☆工藤さんの詩集『のはらうた』を読んで、
でてくる虫や動物を絵に書いてみよう!
☆あなたも詩にチャレンジ! だいすきなもの、
きになるものの気持ちをかいてください。

みんなの作品は、工藤さんに見てもらいます。
講演会の当日に、工藤さんの感想が聞けるかも?
応募用紙は図書館にあります。絵だけ・詩だけで
もOKです。作品ができたらかウンターへ持ってきて
ね。「のはらむら」のみんなといっしょに、
詩の世界であそんでみよう!

工藤さんの『のはらうた』って?
子供たちの手にすっぽり入ってしまう
詩集『のはらうた』(童話屋)。
自然界の生き物たちの代理人、工藤直子さん
が、のはらの虫や動物、風や草木たちのうたを
まとめたシリーズです。



中学生ほんともクイズ

参加チーム募集

クイズ大会のテーマはズバリ『本』。読書に関
するさまざまな問題をバシバシ出題しますよ!
気の合う仲間とチーム参加して、キミのほんとも
(11本と友だち)度をチェックしてみよう!

【日時】3月7日(日) 午後3時40分～

【場所】多摩市立図書館(本館) 2階 閲覧室

【参加資格】市内在住・在学の中学生

(3人1チームで申込みのこと)

【申込方法】市内図書館および市立中学校図書館

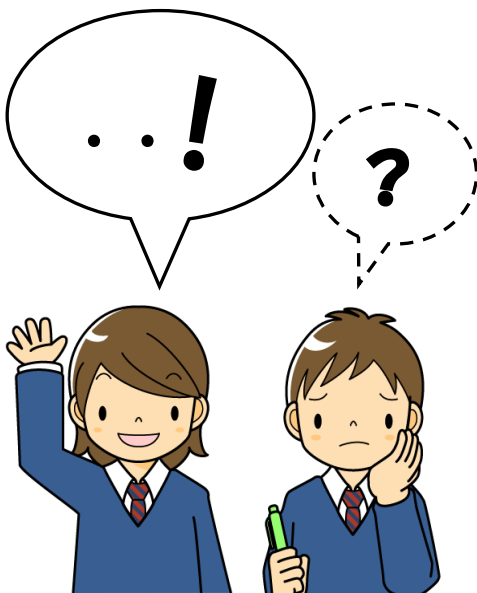
にある申込用紙に記入して提出

(参加希望が多い場合は抽選)

【申込期日】1月29日(金)まで

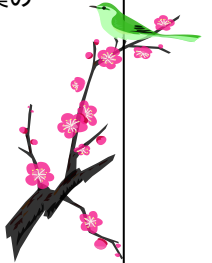
【問い合わせ】関戸図書館 ティーンズ担当

Tel 042・371・1004



詩の本棚から

新しい年に
詩の本を開いてみませんか？
選ばれた美しい言葉の
ひとつひとつが
あなたの心を
きゅんとさせたり
ほわんとさせたり
びくっとさせたり
新しい自分のために
詩の本を どうぞ・・・。



「谷川俊太郎詩集」

詩集は読まないという方でも、谷川さんの詩にはどこかで出合っているはず。例えば教室で、あるいはCMで、ひよっとすると映画の主題歌で。

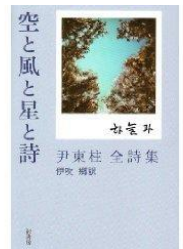
2004年にACCグランプリ賞（テレビCM部門）を受賞した「朝のリレー」をご記憶の方も多いのでは。また宮崎アニメ「ハウルの動く城」の主題歌も、谷川さんが作詞されたとか。ですが耳で聞くのと目で読むのでは、詩の味わいが少々異なるものです。

「カムチャツカの若者が」で始まる「朝のリレー」を収録した詩集『いまぼくに』（理論社）は、多くの詩集を編集した水内喜久雄氏の選・著。巻末の「谷川俊太郎さんをたずねて」からは、谷川・水内両氏の詩への姿勢だけでなく、その人柄までが伝わってきます。

『はだか』佐野洋子絵（筑摩書房）は、大人の立場から子どもに何か伝えようとするのではなく、谷川さんが自分自身の中にある「子ども」をつかみ出すために書いた詩集。全篇ひらがなで綴られた詩と墨一色のイラストが、子ども時代のおいと息苦しさを伝えるようです。

『空と風と星と詩 尹東柱全詩集』

尹一柱編 伊吹郷訳
影書房 2002



尹東柱（ユン・ドンジュ）は開拓民の子として満州に生まれ、同志社大学留学中、治安維持法違反により逮捕され福岡刑務所で獄死しました。1945年2月、27歳でした。死後ソウルで遺稿詩集が出版され広く知られるようになり、韓国の中高校の教科書にも載っています。彼の詩を読むと、孤独・内省・やさしさ・高い志などを感じます。また、この本から25編を選び、日本語・韓国語で朗読したCD『尹東柱詩集』（キングインターナショナル）もありますので耳からも味わってください。

『左右の安全』

アーサー・ビナード著
集英社 2007



米国ミシガンで生まれ、表意文字に興味をもち来日。21段変速の自転車で23区を疾駆する。路上の若葉マークをコレクション。多摩市貝取での採集記録あり。日本語能力は「日本人」も驚くほど。書道を習い、謡いを学ぶ。落語を楽しみ、俳号は「ペダル」。エッセイも抜群におもしろい。『日本語ほこりぽこり』で講談社エッセイ賞受賞。『左右の安全』では、そんな彼が、アメ横を歩き、池袋のアパートの屋上から富士山を拝み、公園のベンチでワンカップを啜る男の隣にいる。

『たそがれ詩集』 やなせたかし著

かまくら春秋社 2009

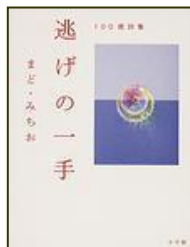


「存じ「アンパンマン」の産みの親である作者が、九十歳の記念で出版した詩集です。まず、本を開いてみてびっくり！ こんな大活字本が今まであったかと・・・！綴られた詩の中には思わずふふっと笑ってしまうものや、ノスタルジックになってしまふ詩もあり、歳を重ねることの素直な気持ちが伝わってきます。高いところから見下ろした詩人ではない著者の言葉が胸に響きます。

『人生いつしかたそがれて わずかに残る うすあかり』（白泉社）もあわせてお薦めです。

『逃げの一手 100歳詩集』

まどみちお著・挿絵
小学館 2009



著者はこの詩集のあとがきに「臆病な自分は詩の中に逃げることによって、ここまで来た。それが私の生き方」と語っています。ただ、この詩集を読むと「逃げる」ということが、時として心の解放に繋がるのではと考えさせられます。自然や小さいものを慈しむまなざしが、読み手にそう感じさせるのかもしれない。



市民ボランティアさんにインタビュー！ Part 3

行政協力員※の「音訳者&校正者」さんを紹介します！

図書館では、活字資料の利用が困難な方々に向けて「録音図書」を作成しています。録音図書とは、印刷された資料を書かれています通りに音声に置き換えたもので、カセットテープや、CDに似たデージー図書があります。

この音声への置き換え作業を「音訳」と言いますが、ただ活字を読めばいいのかもしれないと思ったら大間違い。まず「音訳者」となるために、何回もの養成講座を受けなくてはなりません。声の出し方、図表の読み方など様々なルールを学び、いよいよ音訳を...とその前に、大切な「下調べ」があります。語彙のアクセントや人名・地名、専門用語の読み方等々を調べてから、やっと録音作業が始まります。

録音が終了すると、次は「校正者」の出番です。音訳されたものと元の資料（原本）を照合し、読みや発音の違い、間のとり方やスピード等を確認して、より良い読みを提案します。そして図書館職員が修正箇所を確定して音訳者に読み直しを依頼し、その後もさまざまな工程を経て録音図書が完成します。

現在、音訳者さんの中から5名の方に校正をお願いしていますが、皆さん10年以上のキャリアを持つベテラン揃い（30年以上音訳を続けていらっしゃる方も！）。毎月1回開催している「校正者連絡会」にお邪魔し、活動を始めたきっかけや、その思いを伺いました。



「本が好き」「声に出して読むことが好き」だったので、たま広報に載っていた講習会に申し込みました。「人の役に立つ」「聞いてくれる人がいる」ので、読み続けられ上達するはず、と続けています。以前、フランス語の本の音訳希望がありました。フランス語は読めないのですが、アルファベットを読み上げる形で音訳したのですが、それでも利用した方の役に立ったと伺いました。目の不自由な方にとって、活字の資料は白紙と同じ。その内容が「音」になって、初めて価値を持ちます。ですから録音図書を聞いてくださる方が先生だと思い、ありのまま原本通りに、また「一度聞けば無理なく自然に分かる、聞きやすい音訳」を目標に読んでいます。

その為にも下調べは必須です。今はインターネットがありとても便利ですが、以前は図書館で丸1日かけて辞書を引いていました。大変でしたが、いろいろな事を学ぶチャンスでもありました。図書館のレファレンスサービスも助けになっています。また校正も、原本に忠実に聞きやすい録音図書を作るために、必要不可欠な作業です。「下調べ」「音訳」「校正」が録音図書を作る三本柱でしょうか。

録音は自宅ですることが多いため、雑音が入らないよう気を使います。どんなに暑い日でも部屋を締め切り、ドアの隙間もしっかり塞ぎます。それでも飛行機や選挙カーが通ると中断するため、つい「早く行って」と思ってしまうですね（笑）。



現在も「校正者連絡会」をはじめ、各地で開催される様々な勉強会や講習会に積極的に参加している皆さん。若々しい笑顔の秘訣は、この辺りにあるのかも知れません。

※以前は「朗読ボランティア」さんとお呼びしていましたが、高度な専門技術を持ち、また有償であるため、現在は「ボランティア」ではなく「行政協力員」という位置づけになっています。

お話を伺い、何よりも高い意識と熱意を長年持ち続けていらつしやることに感嘆しました。音訳は基本的に一人で地道に行う孤独な作業です。ですが、家族の理解と協力があれば、また仲間がいたからこそ続けてくることができた、とおっしゃっていました。オーブンリールの時代を経てカセットテープが主流となり、現在は「デージー図書」が登場して編集技術や使い勝手が飛躍的に向上したとのこと。一方、パソコンを利用するため、操作方法の習得が必要となり、データ入力などの新たな作業も生じたとか。さらには、時代と共に、言葉自体や「良い」とされる読み方も変わっていくため、ベテランの皆さんも日々の研鑽が欠かせないようです。